平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207827		
法人名	有限会社　湯の里		
事業所名	グループホーム　湯の里		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字木戸沢199番地70		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成27年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・広い庭園で新緑とつつじを愛でながらの会食、秋は紅葉を楽しみながらタンポ会，四季の移り変わりを感じながら、利用者、家族、近所の方々やスタッフと交流しながら食事を楽しんでいる。
・毎年、関連事業所との合同運動会を実施しており、利用者、家族、じゅんさい音頭推進協議会、ボランティア、民生委員、来賓の方々が多数参加し家族や地域との交流を深めている。
・自然豊かな温泉地に位置し、ホームにも温泉が引かれ、毎日温泉浴を楽しんでいる。 また起床時に清拭等行っており清潔保持に努めている。
・利用者、スタッフと一緒に畑作業を行い、収穫を楽しんでいる。
・手作り弁当でドライブ、散歩等行っており、周りの景色を見て季節感を感じられるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭園や畑の様子から四季の移り変わりがホーム内からも感じられる他、外出、地域との交流、行事なども活発に行われている。また、職員と入居者の方との明るく楽しい笑い声も絶えず聞こえ、認知症の方にとって心理的に刺激が多く、心身機能の低下を防ぐことにつながるとともに安心して生活できる環境が整っている。

管理者を始め職員同士の意見交換も活発になされており、ケアプランの展開過程に関しては、利用者の状態や希望の把握からサービス提供計画の立案ならびにサービス提供、そして評価・見直しという一連の流れが確立・運用されており、優れたサービス提供の基盤となっている。

同法人他事業所と管理者会議が定例で開催され、ここでの情報交換が質の高い実践を支えることに役立っている。サービスの改善意識が高く、看取りへの対応についても自らの取り組みを振り返りつつ改善に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念は玄関に、ホームの目標は玄関、事務所に掲げ、理念にそったサービス提供が図れるよう心がけている。また独自の目標も掲げ日々のケアに取り組んでいる。	会社の理念、ホームの理念、また介護の心得などを掲示するとともに、日ごろから申し送りなどの場を活用して「自分もいずれたどる道」など、職員間で確認し合いながら、優れたサービス提供の裏付けとなる意思疎通が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、たんぽ会等のホーム行事の開催、森岳温泉夏祭り等の地域行事への積極的な参加により、地域とのつながりを深めている。	住宅地の中に立地しており、日常的に地域との交流がある。3つのグループホーム合同の運動会に地域の方から参加してもらったり、利用者が地域行事に積極的に参加するなど、地域との密接なつながりが感じられる活動を実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	年間行事を通じて参加された地域の方々に理解や支援の方法を伝える機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、職員の研修等について報告し、意見や評価を伺いサービスの提供に努めている。	運営推進会議には、地域住民や地域包括支援センターなどの他、家族代表、そして以前入居していた利用者の家族も参加しており、積極的に意見を出してもらっていることが議事録からも確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接担当者を訪問したり電話で情報交換し、指導や協力を受けながらサービスの提供に努めている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加している。看取り介護に対する助言をもらうなどの事例もあり、地域密着型サービスとして市町村との連携を積極的に図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が禁止となる行為を理解しており、身体拘束は行っていない。また、必要な時は本人や家族に説明し了解を得た上で取り組む方針である。	職員内での研修なども行っており、禁止となる行為についてはしっかり理解している。また、現状では身体拘束を行った事例もなく、出入口等も施錠されておらず出入りは自由にできるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会があり、ホーム内での虐待は勿論、自宅での虐待がないか本人の表情や身体を観察している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在この事業や制度を利用している利用者はいないが、管理者や職員は研修等で学ぶ機会があり、必要な人には、活用できるよう支援することができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明をしている。利用料等の改定時は口頭や文書により十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望を話せる雰囲気作りに努めている。また、運営推進会議、家族会での意見等を運営に反映させている。	運営推進会議に家族参加があり、以前入居していた利用者の家族の参加も見られ、家族とホームとの関係が良好である。調査時も家族の面会が見られたが、職員との対話も親密な様子であり、意見を言いやすいよう接していることが伺われた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員からの意見、要望等を管理者会議で運営者に報告し、積極的に運営に反映させている。	職員会議内では、積極的に意見交換をしながら意思統一が図れている。職員インタビューにおいても、「悩んでいても言い合って解決できる」との言葉もあり、職場内の風通しの良さが感じられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々がやりがいや向上心を持って働けるよう職員のレベルに応じた研修に参加し、それが職場で活かされている。職場環境・条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修計画を策定し、全職員が研修を受ける機会を設け実施している。資格の取得にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、交流を深めており、ネットワークづくりはできている。また、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで本人や家族と十分な面接を行い、検討を重ねて対応している。信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、要望等を十分傾聴し、その後の本人及び家族の不安の解消に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることを見つけ、職員と一緒に行っている。また利用者や家族の話しを傾聴しながら暮らしを共にしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にし、行事等の参加を促したり、電話等で近況報告をしたり、利用者を支える関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや外出時に馴染みの店に寄ったり、美容室に出かけたり、面会や外泊も気軽にできるよう支援している。	隣のユニットと調整を図りながら、交互に外出支援を行っている。ホーム内には外出時の写真が掲示され、利用者と職員が楽しく過ごしている様子が伺われた。また、馴染みの人との関係性を維持できるように努めていることも確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の十分な把握に努め、職員が間に入り利用者とのコミュニケーションをとり、支え合えるよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後もホームの行事に招待したり、困っている時は相談に応じ、本人、家族との関係を大切にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分な傾聴に努め、普段の会話の中から本人の思いを汲み取り、ケア会議等で話し合っている。	「基本情報」の聴き取りを行う中で、ホーム入居に至った経緯や本人・家族の想い・意向の把握に努めている。入居後の様子についても、本人の様子観察や記録をしっかり行うことで、思いを汲み取ることができるようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接から利用まで利用者、家族等と十分に話し合い、本人の希望ややりたいことを聞き取り、職員会議等で全職員が共通に理解するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの過ごし方や心身状態を把握しており、本人の有する力が発揮できるよう支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族からの意見、要望等をサービス担当者会議において話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	本人の生活がより質の高いものとなることを目指し、思いや希望、現状を適切に把握し、職員で活発に意見交換しながら介護計画を作成している。	利用者視点に立ったケアを実践しているが、今後、家族や医療関係者など、ホーム職員以外の資源を計画に盛り込むことを介護計画に位置付けることで、より一層質の高いサービスを目指すことが期待できる。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子等を記録しており、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向や必要性に応じて、小学校の運動会、地域のお祭り等に参加しており、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれが自分のかかりつけ医をもっており、家族や職員が同行することで身体の状態を適切に把握している。医療、薬局との関係は良好である。	看取り介護時の対応経過などからも、かかりつけ医との連携が取れている状況が伺われる。かかりつけ薬局は現在一か所にまとめており、情報交換も良好で、職員が気軽に薬剤師に問い合わせできるようになっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制を築いており、看護職員に利用者の状態を報告し、また、アドバイスをいただきながら状態の把握に努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態把握を行うため、担当医師、看護師から情報提供を受けている。また、必要があればホームでの状況等の情報を提供し、協力できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ホームでできることを利用者、家族に説明しており理解していただいている。急変時は、職員全員が対応できるよう話し合っている。	前年度の外部評価結果を踏まえ「看取りに対する指針」を整備し、今年看取り対応となった事例がでている。実践経過においても、医療との連携、家族対応、職員の方針共有などの他、事例の振り返りを行い、改善課題も抽出することができている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員が救命講習を受講し、初期対応や応急手当てができるよう努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、消火、通報、総合訓練を実施しており、全職員が災害時の避難方法を心得ている。地域の方々が避難訓練に参加して下さっている。	年に3回、地震想定や夜間想定で消防署員立会いの下、訓練を実施している。近所に元消防署員がおり、その方をはじめ地域の方の協力も得て訓練を実施し、地域との協力体制も築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。	排泄介護などの場面では、耳が遠いと言葉かけが難しい場面があるが、申し送りの場などで振り返り確認し、互いに注意している。また、利用者への感謝の言葉かけを大切にしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の行動、会話の中からその人の思いや希望を汲み取れるよう努めている。本人の思いや希望を大切にし、自己決定できるよう働きかけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や体操、水分補給等はおよその時間を決めているが、その他は本人の意思を尊重し対応している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を取入れながら、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物に出かけたり、出来る範囲内で食事の準備や食器拭き、テーブル拭き等をお願いしている。	一人ひとりの能力に応じて役割を遂行することができるように働きかけている。また、そうした役割遂行の場面や食事の場面においては、職員と利用者が会話をしながら、食事を楽しむことができるよう働きかけている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや必要量を考慮し食事を提供している。バランスを考慮したメニュー作りを心がけている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。援助の必要な利用者は職員と一緒に行っており、コップ、歯ブラシ等の清潔保持にも努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、安心して排泄できるよう努めている。おむつに頼らない自立にむけた支援を行っている。	24時間の排泄記録をすることで、個別の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。入居前におむつ使用であった方についても、排泄記録表の活用で、おむつを外すことができ、ホーム全体でおむつから布パンツに切り替わる割合が高くなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動を促している。飲食物にも考慮しながら取り組んでいる。また、医師の指導の下、薬の服用を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望、健康状態に合わせ入浴を楽しめるよう支援している。	温泉浴が提供されている。入浴の機会は原則1日おきであるが、希望があれば随時対応している。職員と利用者の関係が良いためか、入浴を拒否する事例はほとんどない。入浴への誘い方についても工夫がなされ、認知症高齢者の不安の軽減にもつながっている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心してゆっくり休めるよう日中の活動を促している。また、薬の服用については、医師の指導の下おこなっている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作り、一人ひとりの薬の目的や副作用等を全員で理解している。服用による症状の変化等はその都度、かかりつけ医に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理補助、食器拭き、洗濯物たたみ等を行っていただいている。ドライブやレクリエーションで気分転換を図ったり、水分補給時に自分の好きな飲物が摂れるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、地域行事、ホーム行事等、戸外に多く出かけられるよう支援している。	ホームの中庭を中心とした散歩が日課として組まれている他、地域行事やドライブ外出なども積極的に行っている。ドライブ外出については、普段はなかなか行けないような場所にも対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つことの大切さを理解しているが、本人や家族の希望でホーム管理になっている。その中の一部を本人が持参し、職員同伴で買い物に出かけるときもある。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや本人が電話をかけたいと希望する時は希望に沿い支援している。手紙のやり取りもできるよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気に心がけ、玄関、ホールには季節の飾付けや花、行事等の写真など貼っており居心地よく過ごせるよう工夫している。また、清潔を保ち不快感がないよう努めている。	採光の調整や室温調整などに配慮されており、居心地が良いように工夫されている。リビングからは庭が見え、庭の木々の様子から四季の移り変わりがわかるようになっている。訪問時は、軒下に利用者に協力してもらい準備した干し柿もつるされていた。殆どの利用者は、居室で過ごすよりリビングで過ごすことが多く、共有空間の居心地の良さが伺われる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、また職員と一緒に会話したりゆっくり過ごせるよう工夫している。また、廊下の一部にテーブルと椅子を置き、お茶を飲みながら語り合えるスペースがある。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用した馴染みの物を使用している。利用者一人ひとりの認知症状、ADLに合わせた居室作りになっている。在宅での生活が継続できるよう工夫している。	ベッドや時計、装飾品などが工夫された配置になっており、利用者それぞれの認知症状に合わせた居室づくりがなされている。自宅からの持ち込み品などもあり、安心して居心地良く過ごせるように配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレがわからない利用者には場所を表示し、混乱や失敗がないように声かけや見守りをしながら、自立した生活が送れるよう工夫している。		